

第六回～第十回（平成二十五年度～平成二十九年度）

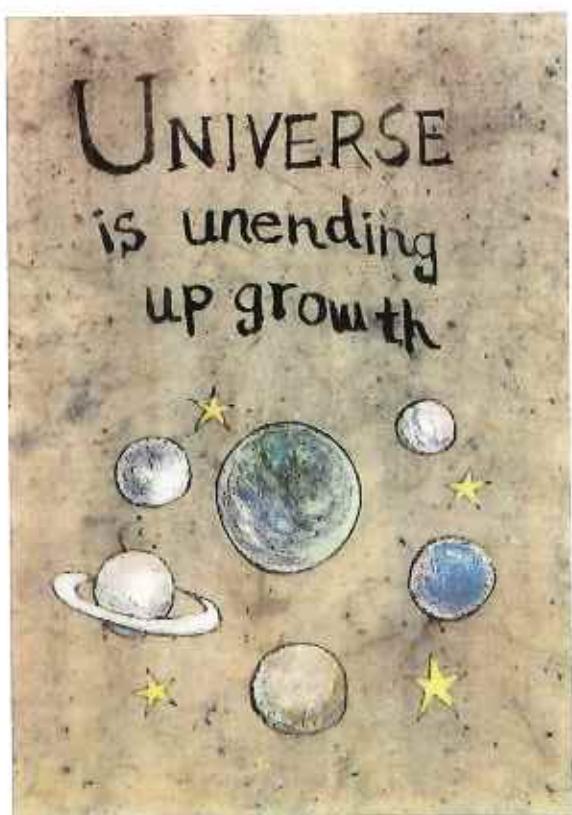
# 湖南市の小さな詩人たち

（子どもたちが創った

詩・俳句・川柳・短歌 入選作品集）

# 明日の私は 新しい

主催 湖南市教育委員会  
協賛 水口ライオンズクラブ



## はじめに

日本にはむかしから道ばたの小さな花や虫、季節の風、家族との何気ない会話など、日常の小さな出来事に心をふるわせる美しい表現が数多くあります。例えば、春時雨、夕立、粉雪、吹雪など「雨」や「雪」という自然現象を一つとっても、わたしたちに感動や恵みを与えてくれる様々な表現があります。

わたしたちが、多くの人と出会い関わる中で、「ミニユニークーションをとるとき、言葉は人と人をつなぐ大切な役割を果たします。自分の思いや気持ちを周りの人伝えると、言葉が豊かであれば周りの人の心にこだまし、より温もりのある人間関係を築けます。

このような力を湖南省の子どもにつけるために始めた「湖南省の小さな詩人たち」事業も、今年度で第十一回を数えることができました。ここに第六回から第十回までの入選作品をまとめました。湖南省の子どもたちがこの作品集の作品に心を動かし、ますます豊かな言葉の力を育んでくれることを願っています。



湖南省教育長 谷口茂雄

もくじ

詩 部門

- ・小学校一年生～三年生の部
- ・小学校四年生～六年生の部
- ・中学生の部

33 15 1

○ 五七五 部門

- ・小学校一年生～三年生の部
- ・小学校四年生～六年生の部
- ・中学生の部

75 63 51

※いづれの部も【最優秀賞】・【優秀賞】・【佳作】の順

○最終審査

詩部門

五七五部門

平賀 野呂  
胤壽 祖選

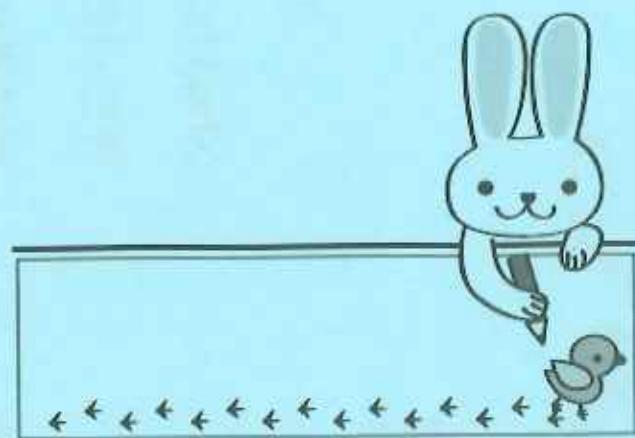
※最優秀作品には選評をいただきました。

最優秀作品の【評】はお一人によるものです。

## 【詩 部門】

小学校一年生～二年生の部

○掲載作品の作者の学年は、入選当時のものです。



最優秀・優秀



友だちっていいな

おにいちゃん

みかん

ぎゅつ

おおい、そら

いもほり

おちば

木

さむいあさ

ほしの一日

たん生日

あめ

落ち葉のにがおえ

おにいちゃん

きらきらひかる

きいろいろはっぱ

かけざん

佳作



たいよう

ハンバーグ

ひらひらおちば

へびがねていた

冬のクリスマス

かけざん





## 第一回（平成二十年度）最優秀賞

友だちつていいな

石部小学校 三年 伴ばん

希美



### 【評】

おたがいに相手の気持ちを大切にしてつきあつて  
いると、友情が生まれてきます。

おたがいの苦しみをいっしょになつて感じ合つた  
り、よろこびをいっしょになつて感じ合つたとき、  
「友だちつていいな」と思いますね。

「友だちを えがおにするために／こんどはわたし  
が やらなくちゃ」

リストのフレーズがいきいきと躍動しています。

友だちつていいな  
と思つた時  
なんか気持ちが  
おちついた  
なんですかなあ  
うつかり顔まで  
えがおになつた  
こんどはわたし  
やらなくちゃ  
友だちを  
えがおにするために



## 第一回（平成二十年度）優秀賞

おにいちゃん

三雲小学校 二年

副田そえだ 晓人あきと

おにいちゃんは  
ぼくより  
としがすこしうえだ  
だから  
つよさもうえだ  
スピードもうえだ  
かんがえるのもうえだ  
だから  
ぼくがおいついても  
おいついても  
ぼくは  
おにいちゃんには  
とどかない  
でも  
ぼくは  
あきらめない



みかん

下田小学校 一年

東川ひがしかわ 舞衣まい

みかんつて  
かわいい かたちだね  
あたまの上に ほしのびん  
ころころまるいし ぼーるみたい

みかんつて  
なかよしかぞくだね  
かわをむいたら  
あかちゃん十人  
ギュ ギュ ギュ



# 第一回（平成二十一年度）最優秀賞

ぎゅつ

三雲東小学校 一年

塩澤 しおざわ

七海 ななみ

おかあさんぎゅつとしでもらつたら  
いいにおいがしたよ

おかあさんぎゅつとしでもらつたら

ふわふわだつたよ

おかあさんぎゅつとしでもらつたら

じーじーがあたたかくなつたよ

## 【評】

大好きなおかあさん。おかあさんがそこにおられるだけで安心です。ぎゅつと抱きしめてもらつたら、いい匂いがしたのですね。さらに、ぎゅつとしてもらつたら心があたたかくなつたのですね。七海ちゃんのおかあさんへの信頼の気持ち、愛情がしっかりと描かれていて、すぐれた作品です。





## 第一回（平成二十一年度）優秀賞

おおい、そら

三雲東小学校 一年 白濱 優衣しらはま ゆい

いもほり

菩提寺北小学校 二年 中川 綾望なかがわ あやみ

そらにむかって

「そら」つてよんだよ  
もみじの木のとくろで  
「そら」つてよんだよ  
よろこんでくれるよう  
ゆっくりゆっくりよんだよ

いもほりをした  
土をほついたら  
いもが ちょっとぴり顔を出した  
まるで「こんにちは」つて  
あいさつしているみたい  
丸い「ロロロ」としたいも

みんなでよんだら

へんじをしてくれたよ

「そら」つてよんだら

わらつてたよ

きれいなむらさき色

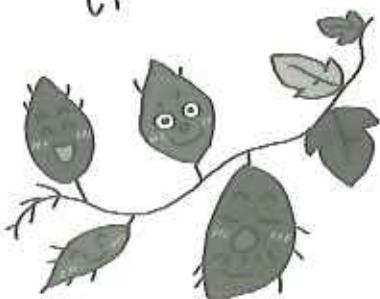
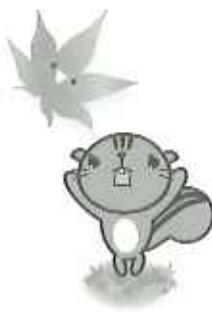
おしゃれだな

わたしがほつたいもは

ちょっと小さくて かわいい

春から水をやって

草をぬいてそだてたから





## 第二回（平成二十二年度）最優秀賞

おちば

菩提寺北小学校 二年

北村

優依



きれいなおちば

まつかなおちば

雨にぬれたおちば

小えだからおちたおちば

かれたおちば

森には

いろいろな

おちばがあるね

たくさんのおちばがあるね  
おちばも人とおなじだね

【評】

森のなかに散りしいておちば。形も色もそれ  
ぞれに異なつて、まるで色彩の音楽を奏でているよ  
うです。

そのおちばたちの様子に目を輝かせて見入つて  
いる北村優依さんの姿が見えます。

ラストの「おちばも人とおなじだね」の言葉がと  
てもいい。この世にあるものは、すべて個性があつ  
て、それぞれがいのちを輝かせて生きていることを、  
しっかりととらえています。

## 第二回（平成二十一年度）優秀賞



### 木

下田小学校 三年

植田

英嗣

ぼくは、木  
いつもじーとして  
かぜにふかれてきもちいいな  
あめの日はシャワーみたいで  
よごれがおちる  
たまにきられてなかまがへる  
でも まためがでてなかまがふえる  
いつもみなをみてる  
ぼくは、木



### さむいあさ

菩提寺北小学校 二年

富永

遥香

さむいあさは  
ふとんから出たくない  
ふとんから出たらいそいできがえるよ  
学校にいくとちゅう  
はつぱも白くなつていた  
はつぱをざわつてみたら  
つめたかったよ  
はつぱはおふとんないのかな  
みんなであつまつたら  
あたたかくなると思うな



## 第四回（平成二十三年度）最優秀賞

### ほしの一日

下田小学校 一年

植西

桂太郎

朝 ほしねてる

昼 たいようのうしろに

かくれてる

夕がた 空におりてくる

夜 夕日をたべる

それから 月をよんぐくる

人がねたら

空に絵をかく

#### 【評】

「朝 ほしねてる」「昼 かくれてる」といった  
表現も簡潔ながらとても新鮮です。「人がねたら  
空に絵をかく」の言葉も、夜空いっぱいにきらめい  
ている星のようすが、さらに鮮やかにイメージされ  
て、星たちが描く絵が日に見えるようです。





## 第四回（平成二十三年度）優秀賞

### たん生日

水戸小学校 三年

蓑田みのだ

拓真たくま



### あめ

三雲東小学校 一年

岡田おかだ

雛ひな

あめがふって カさをさしたら

ちよんちよん

ぴちぴち

ちよんぴち ちよんぴち

ちよんちよんちよん

ながぐつはいて

水たまりに入つて

おもしろくつて たのしくつて

たまらない

だから  
家族みんなの  
とてもうれしい日

たん生日は  
お母さんが  
ぼくを生んでくれた日  
そして  
とても大切な日  
ぼくが生まれて  
お父さん  
お母さんが  
本当の  
お父さん  
お母さんになつた日





## 第五回（平成二十四年度）最優秀賞

### 落ち葉のにがおえ

石部南小学校 三年

竹中

たくみ

だれのにがおえかな

このにがおえ わらつてる

あっちのかおは おこつてる

そのとなりのかおは ないている

そっちのかおも ないている

どうしたのかなあ

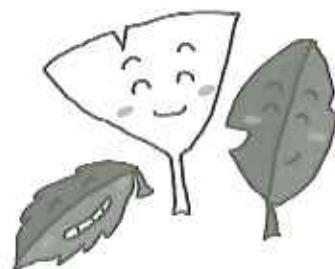
いろいろなところに にがおえがあるなあ

しぜんのにがおえ

落ち葉のにがおえ

【評】

秋は落ち葉の季節。庭にも道にも枯れ葉が落ちています。葉をよく見ると、わらつてている顔、おこつてている顔、泣いている顔、すましている顔、いろんな顔があるというのです。自然がえがいた「にがおえ」。どれもすてきですね。よく発見しました。しゃがみこんで落ち葉を不思議そうに見ていてる竹中君の姿が見えてきます。





## 第五回（平成二十四年度）優秀賞

おにいちゃん

石部南小学校 一年

新あたらし  
乃々葉ののは

きらきらひかるきいろいはっぱ

とつても大きい

がつこうのポプラの木

きいろいろはっぱをいっぱいつけて  
きらきらひかってきれいだよ  
かぜがふいたら

さむそうで

たいようにひかりをちょうどいって  
手をふっているみたいだよ



三雲東小学校 一年 阪本わかもと  
彪賀ひょうが

「おにいちゃん」と よんだら  
「なんや」と んだら  
「なんや」と へんじをした。  
なんだか おもしろい  
もう一かい  
「おにいちゃん」と よんだ。  
また  
「なんや」と へんじした。  
こんどは おにいちゃんが  
「ののは」と よんだ。  
ふたりで  
「なんやねん。」  
と わらつた。



## 佳作（平成二十年度）

たいよう

菩提寺小学校 二年

波多野はたの

志保しほ

下田小学校 二年

吉治よしじ

光翼こうよく

## ハンバーグ

ザク ザク ザク。

お母さんがキャベツをきつたよ。

おこす

二十四時間 空のとこ

かおはかわっていく

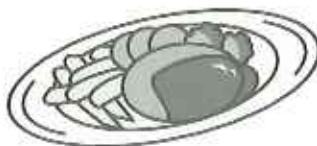
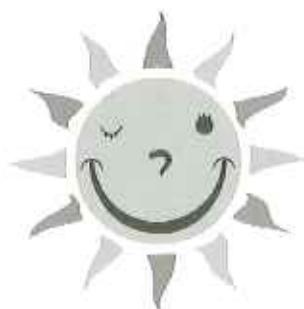
朝はうれしそう

昼はおなかがへった

夜はねむたい

たいようはみんなを

たのしませる



ジュウ ジュウ ジュウ  
フライパンがよんでいる。  
ふたをあけてのぞいたら、  
とつてもいいにおい。  
きょうは ぼくの 大すきな、  
ハンバーグだ。



## 佳作（平成二十一年度）

### ひらひらおちば

菩提寺北小学校 二年

宮崎

ゆたか

木のはが おちはじめた

せっかく赤や黄色にへんしんしたのに  
木のえだやみきをきれいにかざつっていたのに

この木はとてもせい高のつぽ

あんなに高いところからおちてきて  
だいじょうぶかな  
ふんわり、ひらり  
よかつた

あつ、まい木からはなれるぞ  
けがしないかな

と思っていたら風がふいた

おちばは風にたすけてもらつた  
つぎつぎに木からはなれるおちば  
ひらひら、ひらひら  
おどつているみたい  
ぼくはいそいで木の下へ走つていつた  
ひらひら、ひらひら  
きれいだな



## 佳作（平成二十一年度）

### チャルメラ

三雲東小学校 一年

川端 駿介  
かわばた しゅんすけ

チャルメラの音がきこえた

まどをあけてトラックを

さがした

でも みつけられなかつた

そのかわりに

はくいきが白い」とを

みつけた

もうじき ふゆが

くるんだろうな



## 佳作（平成二十一年度）

### へびがねていた

菩提寺小学校 一年

村上 遥輝  
むらかみ はるき

へびがくりんと

まわつていた

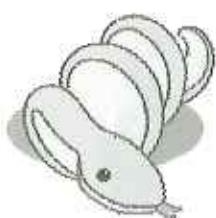
ねていた

つぎのときも

ぐりんとなつていた

またねていた

ぼくはまつすぐにねる



## 佳作（平成二十三年度）



### 冬の中のクリスマス

石部小学校 二年

木山 きやま  
睦月 むづき

ゆきのこなが キラキラとおちてくる

ゆきがいっぱいふつてくる

キラキラキラ

きれいな音がする

キレイな音がきこえてくる

みんなが楽しそうにおどつている

サンタさんをまつてている

サンタさんに手紙かいたり

くつしたをまくらのよこにおいている夜

サンタさんをまちながら

その一日はたのしい夜

つぎの日がたのしみ

だから ねむれない



9 1

3 5

## 佳作（平成二十四年度）



### かけざん

水戸小学校 二年

半谷 はんがい

かけざんの九のだん

ふしきがいっぱい

答えをたすとぜんぶ「9」

おぼえると楽しくなつて

「べべ」 とわらつちゃう

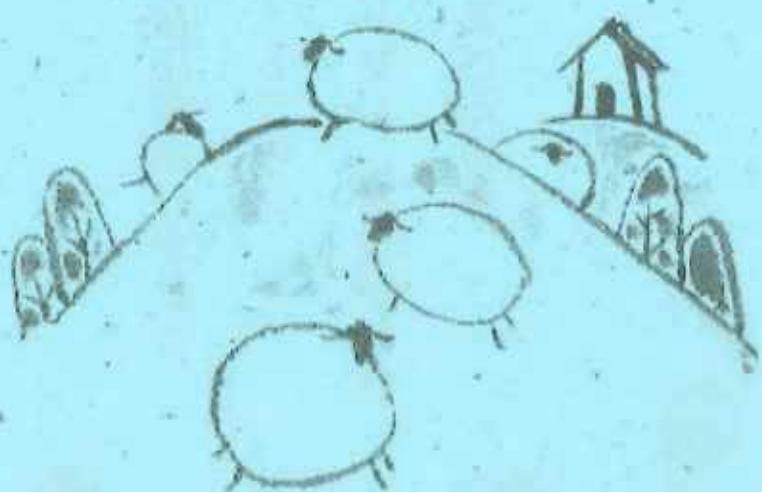


龍寿 りゅうじ

## 【詩 部門】

小学校四年生～六年生の部

○掲載作品の作者の学年は、入選当時のものです。



最優秀・優秀



カマキリ

家族のみんなと

キヤツチボール

しよう来の夢

桜が教えてくれた

おじちゃんへ

転校生

タヤケ

ぼくにはきこえる

音楽

空

お母さん

雨

おじいちゃんの手

雨のダンス

けんか

おかあさんの手

ハーモニー

秋

冬がやってきた

あり

みんな応援ありがとう

スタートライン

ランドセル ありがとう

佳作



# 第一回（平成二十年度）最優秀賞

カマキリ

三雲東小学校 四年

森もり

なつみ  
夏海



## 【評】

ちいさな赤ちゃんカマキリを見つけたときのおどろきが、いきいきとえがかれています。

夏海さんがカマキリを見ておどろいたように、カマキリも夏海さんを見ておどろいたのですね。

さいしょの「いきなり／何かがおちてきた」の表現がとてもいいと思います。

いきなり  
何かがおちてきた。  
ボト・・・  
見ると小さなカマキリだつた。  
ずっと見ていると  
なんとカマキリもこつちを見た。  
どううとしたらにげるし  
走るのがなんと速いのだろう。  
つかまえようとしたら  
いきなりえだに登つた。  
えだから落としてにがした。



## 第一回（平成二十年度）優秀賞

### 家族のみんなとキャッチボール

菩提寺小学校 五年 赤木 あかぎ こうじろ

私が一つ「ただいま」と言葉のボールをなげる  
「おかえり」とまた言葉のボールがきた。

弟が「宿題した?」と言葉のボールをなげた。

私が「まだだよ、一緒にしよう」

と言葉のボールをなげた。

夜はん、お母さんが「学校楽しかった?」

と言葉のボールをなげた。

それを弟がキャッチした。

「とても楽しかったよ」とまたなげる。

「ありがとう」

今日はそれでおわり。

おやすみなさい。





## 第一回（平成二十年度）優秀賞

### しょう来のゆめ

菩提寺小学校 四年

長良ながら

紗英さえ

しょう来は何になろうかな

ケーキやさんになつたら

お客さんにおいしいケーキを

食べさせてあげたいな

しょう来は何になろうかな

パンやさんになつたら

お客さんにやきたてのパンを

食べさせてあげたいな

でも

せんたく物をしているお母さん

料理をしているお母さんを見ると

お母さんにもなろうかなつていう  
気がしてきた



しょう来何になろうかな  
花やさんになつたら  
お客さんにかわいい花を  
あげたいな



## 第一回（平成二十一年度）最優秀賞

### 桜が教えてくれた

石部南小学校 五年

村木 いるか

私は桜を見上げた

なんと美しく、たくましいのだろう  
きゅうに自分がはずかしくなった

この勇気のない自分が

桜は美しい花をさかせるという夢をかなえた

私は夢をかなえられるだろうか

こんな私で本当にできるのだろうか…

私はしづかに目をとじた

ヒラリ ヒラリ サワサワ

ふんわりと桜の花びらが私の手の平にのつた

私は桜の花が、がんばれ、がんばれと言つてくれるような  
気がした

私は気づいた 桜のおかげで

一歩ふみ出さないと何もはじまらない

私は桜の花びらをにぎり 上を見た

「ありがとう」とつぶやいてグランンドに向かつて走った

す。

そして、それが、ともすると閉じようと  
とする心をぐいと開いたのです。

自然観照のしっかりしたすぐれた詩で

#### 【評】

雨や風や冬の寒さに耐えてしっかりと  
枝をのばし、今満開の花を咲かせた桜の  
木。村木さんはその花の中にたくましい  
桜の木の生命力、生きる力、精神を見た  
のです。

## 第一回（平成二十一年度）優秀賞



おじちゃんへ

菩提寺小学校 四年 川端りくかわばた りく

転校生

岩根小学校 五年

望月杏奈もちづき あんな

金曜日 おじちゃんが亡くなつた

お通夜とおそう式に出た  
母はずっとタオルで顔をおおつていた  
タオルの下の顔は真つ赤だつた

日曜日 おじちゃんは骨になつた  
骨になる前に  
おでこをさわらせてもらつた  
氷みたいに冷たくなつていて  
ドキッとした



ガラン。

といつものように  
教室のドアが開いた  
いつもと同じ先生が  
入つて來た

でも

空気が  
いつもどちがう

気持ちが

ちがう

すると

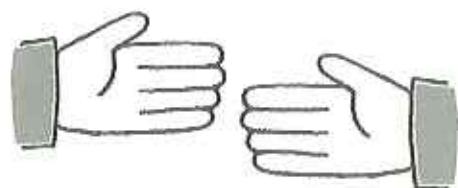
知らない子が

入つて來た

あつ

転校生

と私は思つた





## 第二回（平成二十一年度）最優秀賞

夕やけ

水戸小学校 六年

頭川

剛幸

夕やけはきれいです

夕やけはじんわりと心に語りかけます  
夕やけはその人の心をにじませます

### 【評】

西の空をまっ赤にそめる夕日、昼の太陽と

ひとつの大太陽なのに 色々な顔をもつっています  
とくに夕やけは不思議な力をもつています  
次の日のがんばる力をくれます

落ち込んでいるときや 元気のないときには  
がんばる元気をもらえます

夕やけは不思議です

ちがつて、「じんわりと心に語りかけ」てくる  
ようです。そして、夕やけにそまつて立つて  
いると、たしかに「落ち込んでいるときや元  
気のないときには、がんばる元気をもらえま  
す」ね。夕やけを見た時の感動がよく表現で  
きています。



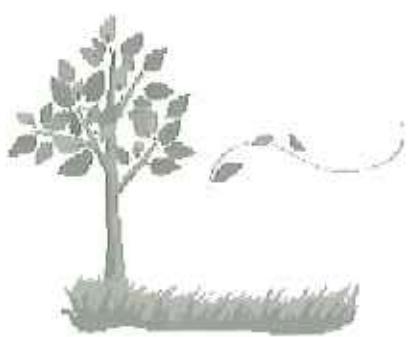
## 第二回（平成二十二年度）優秀賞



ぼくにはきこえる

石部南小学校 五年 藤岡ふじおか

ハルミ



きこえる

ぼくにはきこえる  
さわやかにぼくのとなりをとおる  
かぜのおと

きこえる

ぼくにはきこえる  
たのしそうにうたう  
とりのうたごえ

きこえる

ぼくにはきこえる  
にこにことわらう  
たいようのおと

きこえる

ぼくにはきこえる  
このせかいじゅうの  
しじんのおと

きこえる

ぼくにはきこえる  
いそいでながれる  
かわのと



## 第二回（平成二十二年度）優秀賞

### 音楽

石部小学校 五年

茨木いばらき

萌花もえか

ピアニカふいてたら

しじんと指が動く

息もとてもぐるしくなつてゐる

気がついたら

目の前に

海が広がつてゐるように見えた

夢中にひいてたら

きょくが終わつていた

もう一度ひきたい気持ちがわいてくる  
そんな気持ちにしてくれる





## 第四回（平成二十二年度）最優秀賞

空

石部南小学校 五年

倉富

まり奈



昼の空を見上げ歩いていくと  
くもつた空が帰つてくる  
まるで空が

「雨がふるから早く帰りなさい」  
と言つてるよう

どんどん歩いても

時間がたつたように思えず  
まるで時が止まつて

止まつた時を歩いているようだ

とつてもとつてもふしづ

### 【評】

空を見上げて歩いていると、恒久の時間の中を歩いているような気持ちになります。広い広い空の中では、時間が止まつたように感じますね。そうしたことを感じじることのできる倉富さんの感性をとても清新に思いました。

また、「昼の空を見上げ歩いていくと／くもつた空が帰つてくる」この表現にも驚きました。

青空がだんだん曇ってきて、雲に覆われていく様子を「くもつた空が帰つてくる」とした感覚は新鮮です。詩は感動の表現ですが、その感動は言葉の発見によってもたらされるのです。



## 第四回（平成二十三年度）優秀賞

### お母さん

菩提寺北小学校 四年

山元 ゆまむらこ  
柚依 ゆい

そうじをするお母さん  
ごはんを作るお母さん  
せんたくするお母さん  
お母さんの顔はいろいろ  
いそがしいね お母さん  
そんなにいそがしいのに  
いつもここにこ  
笑顔でいてくれる  
この笑顔でお母さんは  
わたしを育ててくれた  
ありがとう お母さん  
わたしはもう十才  
お母さんにだきつくと  
やさしい「笑顔」のにおいがした  
わたしの大好きなにおい  
・・・長生きしてね



### 雨

三雲東小学校 五年

小谷 こたに  
美帆 みほ

ピッチャンピッチャン  
音立て  
みんなの元へやってくる  
いっぱい友だちひきつれて  
楽しそうにやってくる

キラキラキラと光つてる  
おしゃれなはつぱのアクセサリー  
「きれいでしょう」とじまんげに  
まぶしいくらい光つてる

ふわふわ静かに音立てず  
いつのまにかのぼつてく  
気がついたらもう空の上  
次の出番を待っている





## 第五回（平成二十四年度）最優秀賞

### おじいちゃんの手

菩提寺北小学校 六年

岩本  
いわもと

紗矢香  
さやか



真っ黒に日焼けした おじいちゃんの手  
筋だらけの おじいちゃんの手  
深いしわだらけのおじいちゃんの手

働く手 長年働いてきた手だ

指の先 つめの間には土がこびり付いている

小さいときは

この手で私の手をぎゅっとつないで歩いてくれた

今は

この手でくわを持ち 野菜を育てている

何でもできる おじいちゃんの手

私はこの土のにおいのする手が

大好きだ

おじいちゃんの手のしわ一本一本から

生きてきた様子が伝わってくる

私の手も おじいちゃんの手のように

一生懸命生きている様子が

伝わる手になればいいな

おじいさんの手には、おじいさんが誠実に一所懸命に生きてこられた人生が刻まれています。

「真っ黒に日焼けした」「筋だらけの」「深いしわだらけのおじいちゃんの手」このフレーズからは、岩本さんが畏敬をもっておじいさんの手を眺めている姿が見えてきます。

「おじいちゃんの手のしわ一本一本から／生きてきた様子が伝わってくる」ほんとうにその通りです。家族のために、社会のために一所懸命働いてこられたおじいさん。なんと尊い、美しい手でしようか。

人の世の真実を見つめる清新な作者の精神が作品全般から香り立ってきます。



## 第五回（平成二十四年度）優秀賞

### 雨のダンス

菩提寺北小学校 五年

宮崎  
みやざき

豊  
ゆたか

カミナリの日覚ましドケイで  
日がさめた  
「服に着がえなさい」  
お母さんのさけび声  
ぼくは雨のダンスに耳をかたむけた  
いろんなリズム

リズムが止まつた  
お日さまが顔を出す  
まどを開けると  
かたつむりがいた  
もういちど雨のダンスが  
聞きたないとthought



### けんか

水戸小学校 六年

大江  
おおえ

優希  
ゆうき

けんかをすると心がいたい  
あやまりたいがあやまれない  
自分はわるくないと私は思う  
けどわるい気がして  
あやまろうとするが言葉がでない

けんかをするとまづくらになる  
背を向けるとつめたい風が  
わたしをおしてくる  
まだ明るいのに夜みたい

勇気を出してあやまれば  
ほらもう仲なおり





## 佳作（平成二十年度）

### ハーモニー

水戸小学校 五年

谷

まなみ  
愛海

秋

下田小学校 五年

佐々木

しづく  
静玖

ドとミとソで一つのハーモニー

どれもかかせない音

一つがなくなるとハーモニーじゃなくなる

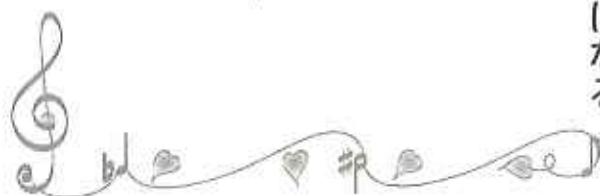
一つがなくなるとメチャクチャになる

なにだつてそうだ

どんな小さなそんざいでも

必要としている人がいる

あなたがいて一つのハーモニー



私の町は、秋になった。

秋になつたので風がふくたびに、

おち葉がおどつてゐる。

山は、夕やけになると、  
ものすごくまつかつかで、

てれくさそうだ。

もうすぐ秋が終わる。

山は、かみの毛をさんぱつして、  
おち葉たちは、ふむと、

バリバリと音の出る

かれ葉になつた。

もうすぐ冬がやってくる。





## 佳作（平成二十年度）

### 冬がやつてきた

岩根小学校 五年

蘆田あしだ

陽菜ひな

ヒューヒューと風がふく  
きれいな葉が散つてゆく  
色とりどりの葉が散つてゆく

ヒューヒューと風がふく  
木々たちは、葉を守ろうとがんばっている  
風に負けずにがんばっている

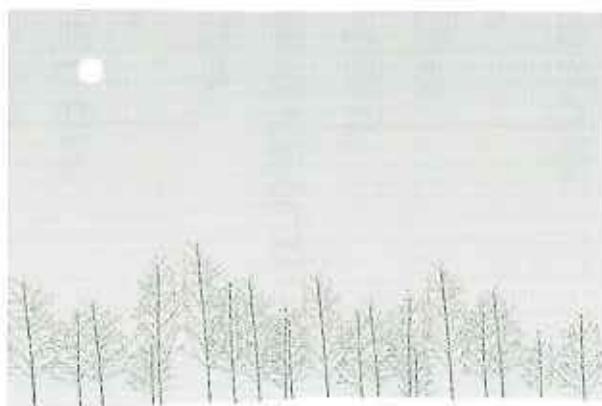
ヒューヒューと風がふく  
きれいな葉たちが散つてゆく

私の目を楽しませてくれた葉たちがちつてゆく

ヒューヒューと風がふく  
木々たちはさみしそうに立っている  
仲間と共に立っている  
寒さに負けずに立っている

ヒューヒューと風がふく  
木々たちはゆられながらもふんばっている  
風に負けずにふんばっている

ヒューヒューと風がふく  
とうとう冬がやつてきた





## 佳作（平成二十一年度）

あり

水戸小学校 六年

米木 よねき

七海 ななみ

みんな応援ありがとう

菩提寺小学校 四年 青木 あおき

那汐 ななせ

下を見たら

ありがいた

大きい虫を運んでいる

ずっと見てたら

他のアリもきた

すると他のアリも

いてつだつて

一緒に

巣まではこんでいった



二キロの持久走大会  
三年の時よりタイムをちぢめる  
今年の私のめあてだ

呼吸をととのえ

手をふつて

足を前に前に

つかれたなと思った時  
おじいちゃんを見つけた  
私はよけいにがんばった

気持ちを強く  
ゴールをめざして  
なんと一位におどり出た



ふみつぶそうとしたら  
すごいスピードでにげた  
アリなのに  
「はやい！」  
すると自分の巣へ  
帰つていった

パワーアップしたね  
友達にも家族にもほめられた  
みんな応援ありがとう



佳作（平成二十二年度）

## スタートライン

菩提寺北小学校 五年

宮本

崇弘

スタートラインに立つた  
じりじりときん張がこみ上げてくる  
ゴールまで続くコースを  
じっと見つめ  
心を落ち着けた

スタートラインに立つた  
それは走る前のほんの短い時間だった  
心を落ち着けるために  
そつと深呼吸をした

「位置について」の声

きん張は一段と高まつた  
だけどそのとき…  
心の声がぼくにさけんだ  
「レースを楽しめばいいんだ」と  
そして、スタートを告げるピストルの音

ぼくは、百メートルのコースを  
思いつきり、そして  
楽しみながらかけぬけた  
ゴールをめざして一直線に  
ただひたすら一直線に



佳作（平成二十三年度）



ランドセル　ありがとう

菩提寺小学校 六年 福田 ふくだ あみ

ランドセルは いつも私の背中にへりついている

いつも重たい教科書を入れてくれる

なのに私は

ランドセルに「ありがとう」と言つたことはない

ランドセルといつしょにいられるのは

たったの六年間

ついに私は六年生

もうすぐランドセルとはお別れだ

私が大きくなるたびに  
ランドセルも古くなる

そうしてどんどんきずがつく

大切に使おうとも思わなくなる

なのに私は

ランドセルに「ごめんね」と言つたことはない

今まで本当にありがとう

ランドセルは私のことを　どう思っていたんだろう  
あまり大切に使ってあげられなくてごめんね





## 佳作（平成二十四年度）

### おかあさんの手

菩提寺北小学校 六年 歳原 かのん

大きなしつかりとした お母さんの手  
心のぬくもりを感じる お母さんの手  
あかぎれでざらざらした お母さんの手  
毎日忙しく働くがんばり屋の お母さんの手  
妹やわたしを包んでくれる お母さんの手

お母さん しんどいときはないですか?  
疲れていませんか  
わたしが大人になつたら今度は

この手が大好きだ  
この手に包まれると  
私の力が解けていくようで  
とってもやすらぎを感じる

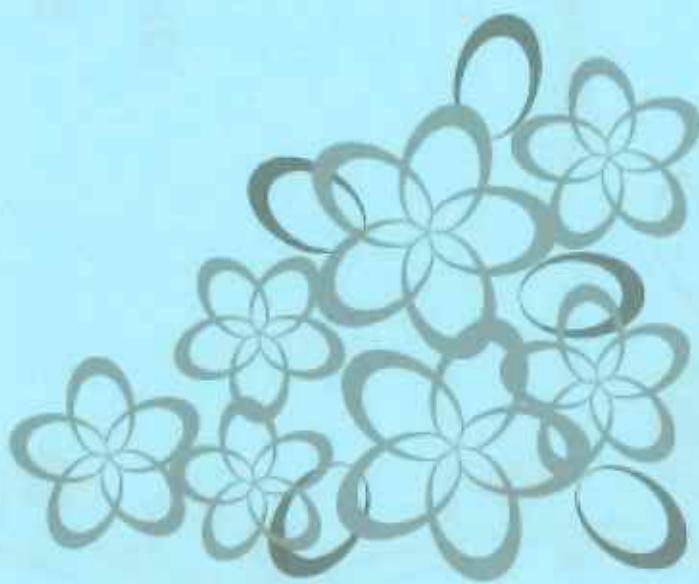
何でもできるお母さんのま法の手  
わたしは 大好きだよ



【詩  
部門】

中学生の部

○掲載作品の作者の学年は、入選当時のものです。





最優秀・優秀



佳作

黄昏の空

一

いつでも笑顔

学校

向日葵

ピアノ

おふろ

—  
1  
6  
0  
0  
0  
0  
0  
0  
0

先生

空

四季

ある晴れた日の朝

音

灯台

明  
日

春が来る前に



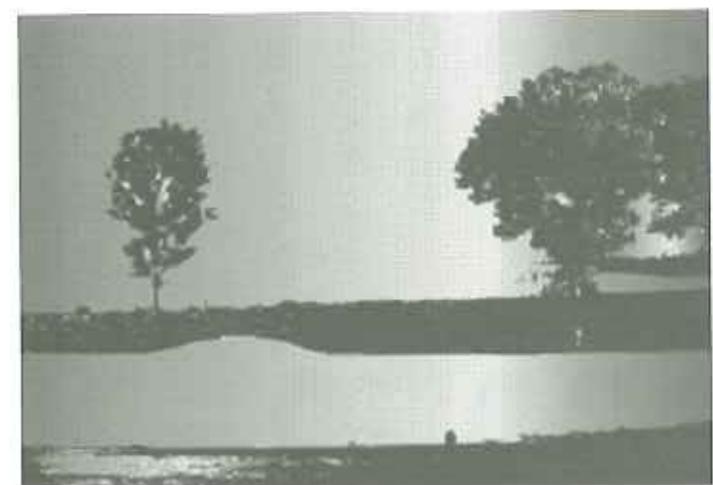
第一回（平成二十年度）最優秀賞

黄昏の空  
たそがれ

石部中学校 二年

林 はやし

佳奈 かな



【評】

夏から秋に移る季節の自然のいとなみの変化がよくとらえられています。

空の色、木々の葉の色、虫の音、そして私の心も変化していくのですね。

薄いうすい青の水に朱を落とす  
握られた絵筆は弧を描き  
風は冬を呼ぶ  
木々山々は朱に着飾り

蒼の空が黄昏に染まる季節

虫の音は秋を歌う

じわりと心にしみて やがて

黄昏に変わる



## 第一回（平成二十年度）優秀賞

一日

甲西北中学校 三年

伊東志保

甲西北中学校 三年 三品りか

カーテンからこぼれる日差し

光を浴びて涼しい風を受ける

今日もまた朝が来た

一日の始まり



窓からの風  
木漏れ日の向こうから  
涼しい声が聞こえる  
今日もまた朝が来た  
一日の途中

笑い声が聞こえる街  
静かな時間が流れる  
今日もまた夜が来た  
一日の終わり

今日の一日が  
明日へとつながる  
今日の自分を  
明日の自分につなげる

## いつでも笑顔

おちこんだとき 友達見れば笑顔になる  
悲しいとき 夕日見れば笑顔になる

さびしいとき 家族といえば笑顔になる

笑顔はとても大切なこと

何があつても笑顔でのりきろうよ

一度しかないこの時間を

かけがえのないこの時間を

きらきらした笑顔で

明日につなげようよ

笑顔の数だけ幸せがあるから



# 第一回（平成二十一年度）最優秀賞



学校

甲西北中学校 一年

青木 あおき

咲季 さき

門に入ると 声が聞こえる  
部活のかけ声、遊ぶ声、あいさつの声、笑う声

全部楽しい、明るい声  
でもどこからか 違う声がする  
耳をすましても聞こえない心の声  
叫び声？ 泣き声？ 怒る声？  
誰かが心で助けを求めている

ーそれに気付こうー  
ー気付いても何もできない  
ーそれを助けようー  
助けたら、次は自分がターゲットになる

それを乗りこえるから  
本当の友達といえるんだ  
だから、見捨てないで

あなたの助けを  
誰かが待っている

【評】

部活での練習風景。生徒たちの明るく楽しく元気な声が、校庭にこだましています。しかし、そうした表面的な声の後ろの方で悲鳴や怒声や助けを求める心の声がしているというのです。人間の心理のとても深いところに気づき描いた詩です。



## 第一回（平成二十一年度）優秀賞



### ひまわり

石部中学校 二年

阪田

みどり

ひまわりは ずっと上を向いてる  
太陽を見上げてる 何があつても  
だから つらい時 ひまわりを見ると  
何か元気をもらえる

私も ひまわりみたいになりたい  
つらくても 悲しくても  
下は向かず ずっと上向いて  
笑っていられるような  
だれかを元気づけられるような

向日葵みたいに 強くなりたい



### ピアノ

石部中学校 一年

宮崎

友里

ピアノは私の部屋の隅に少しけんばんが重くなつて  
少し音が変わつてしまつたピアノは…  
今は私がだけしか使つていらない



ピアノは私が生まれる前から  
我が家になつてお母さんに聞いた  
このピアノはお母さんが子供のとき  
ほしいといつて買つてもらつたという  
でもピアノはたつた数年しか  
弾かなかつたという

ピアノは弾かれなくなつて  
さびしく思いながら  
ただ時の流れにのつていたのかもしれない

そう思うと  
もつと弾きたくなつた

## 第三回（平成二十二年度）最優秀賞



### おふろ

甲西北中学校 一年 北脇 百夏

おふろに入るとなぜか安心する  
楽しさで心がはずむ日  
ゆっくりと入つていく  
ああ きもちいい  
指先からじんじんして  
体の奥の方へと  
あつたかさが伝わつてくる  
今日のわたしはとつても「機嫌だ

怒りで心が乱れる日  
ざばーんと勢いよく入る  
お湯がこぼれる  
にぎりこぶしで何度もお湯をたたく  
怒りがお湯の中に沈んでいく  
全部はき出したら  
いつもの私にもどれる  
今日の私はいつもの私だ

あつたかい湯気はうれしい気持ちを包み  
熱いお湯は嫌な気持ちを流してくれる  
ああ だからおふろつて安心できるんだな

悲しみで心が苦しい日  
ぶくぶくと沈んでいく  
顔をあげたとたん  
お湯と一緒に涙がこぼれる  
シャワーを流し  
声をあげて泣く  
今日の私は最悪だ

### 【評】

お風呂は、体を温めたり、体をきれいにするだけでなく、  
心を温めたり、やすめたり、悲しみや苦しみをいやしたり  
するはたらきもあるのですね。なにげない日常の、お風呂  
に入ることを通して、日々の自分の心の様子をよく見つめ、  
それをいきいきと表現しているところが秀逸です。





## 第二回（平成二十二年度）優秀賞

先生

1  
60000000000

石部中学校 一年

小出水

亜美

いつも見ていてくれてたんだ  
私の頑張っている姿を  
いつも気にしていてくれてたんだ  
隠していた心の奥の闇を

六十億分の一  
僕を数字にするのなら  
六十億もの人がいるなかで  
僕は一人 たつた一人

六十億分の一  
君を数字にするのなら  
六十億もの人がいるなかで  
君は一人 たつた一人

六十億分の二  
僕たちだ  
六十億もの人がいるなかで  
僕は君を見つけた

距離のいらない君を

いつも見えていてくれてたんだ  
私が我慢していた姿を  
いつも気にしていてくれてたんだ  
不安と迷いの道を歩きそうになつた私を

目から雨が降ってきた 自然と  
なぜだろう  
自分に問う  
でも答えが見つからない

いつも見えていてくれてたんだ  
私が努力している姿を  
いつも気にしていてくれてたんだ  
陰いで泣いていたことも  
ありがとう ありがとう



## 第四回（平成二十三年度）最優秀賞



### 空

石部中学校 三年

羽賀 はが

夕姫 ゆうき



#### 【評】

どこまでも続く広く大きな空、空をじっと眺めていると、心がすいこまれてしまいそうに思えますね。そして、自分という存在が、小さな小さなケシの種のように見えています。しかし、身体は小さいけれど、心はその持ち方によって、空を包むほどに大きく広くなることができます。人間の心は、そのように白山で自在です。どこまでも、広く大きくなる心、それが人間のすばらしいところです。そして、「この空のように、きれいな心で輝きたい」このラストのフレーズも輝いています。ぜひ、そのような人になつてください。

空を見上げて手をのばす  
私は小さい  
あの太陽にさえ手が届かない  
空は広く 大きい  
小さくとも  
心は この空のように  
広く 大きい人でいたい  
晴れた空を見上げた 小さい自分  
青い空はすんでいて  
夜空を見上げた 小さい自分  
夜空の星は輝いている  
この空のよう  
きれいな心で輝きたい  
この空のように



## 第四回（平成二十三年度）優秀賞

### 四季

甲西北中学校 三年

角 彩  
かく さら

まちにまつた春がきた

花がさいた

鳥もとんだ

虫たちも春の光におこされた

夏がきた

せみがないた

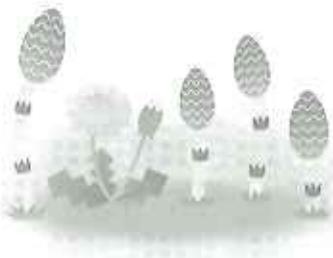
ひまわりもさいた

おし入れの麦わら帽子がおこされた

秋がきた

もみじがにこりとほほえんだ  
いちょうもほのかに色づいた

動物たちはねむる準備をはじめた





## 第四回（平成二十三年度）優秀賞

### ある晴れた日の朝

石部中学校 一年 夏見 勇大なつみ ゆうだい

一年前のある晴れた日の朝  
ランリュックを背負い  
小学校に向かって歩いていた僕の横を  
自転車に乗った中学生が  
追い越して行つた  
ずいぶん大人に見えた

今 僕はその歳になり  
あの時の僕の影を追い越して行く  
昔 いだいていた大人には  
なれていないだろうけど  
「精一杯 生きているよ」  
と自分に語りかけながら  
あの日の朝を越していく



## 第五回（平成二十四年度）最優秀賞



### 音

石部中学校 三年

肥田ひだき  
祐香ゆうか

音のない世界を わたしは知らない

紙がこする音 秒針の音

雨の音 風の音 雷の音

人の笑い声 動物の鳴き声

小鳥のさえずり 川のせせらぎ

### 【評】

この世には、音が満ちています。雨の音、風の音、小鳥のさえずり、川のせせらぎ、どんなものも音を持つていて、いのちのよろこびを表現しています。

音をたてないとも思われる樹木も、近くによつて耳をすますと、葉脈を流れる樹液の音がしています。それらは、みんなそれぞれに、今生きているよろこびをうたつていています。よくそのことに気づきました。

「今日もまた 音はわたしを幸せにする」

どんなものも、よく見ると、そこからよろこびが生まれ、幸せが生まれてきます。



## 第五回（平成二十四年度）優秀賞



### 灯台

甲西北中学校 二年 清水 瑞希

しみず  
みずき

みず  
き

澄んだ青に  
朱色がおとされたと思うと  
濁つたグレーになるのはあつという間

かどの犬の声すら

黒板をひっかく音にしかきこえない

息荒く灯台を目指して

ペダルをぐつとふみこむ

もうすぐ見える もうすぐで

「なんはんは何だらう  
『ただいま』

勢いよく開けたドアから溢れる  
こうばしいにおい

灯台はさらに強く光り出した

今も誰かが灯台へ向かう  
家という灯台へ  
待つている人という光へ  
どんなに遠くへ航海しても  
必ずそこにある  
迷つてどこへ進んでいいかわからなくても  
必ず見える  
蛍のようで太陽のような光が





## 第五回（平成二十四年度）優秀賞

明 日

甲西中学校 三年

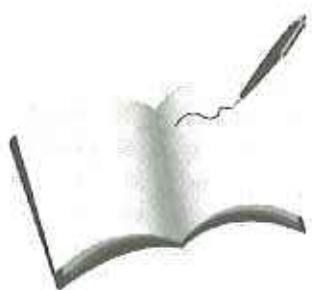
堀井 淳月ほりい あつま

過ぎ去った昨日は  
どれだけ悔やんでも悲しんでも  
消すことはできない  
消しゴムのように

けれど  
今から迎える明日は  
自分で変えていくことができる  
鉛筆で書きたすように

だからこれからは  
書いていこう  
自分が行いたかつたことを  
書いていこう  
自分が言いたかったことを

新しく開くノートのページに



## 佳作（平成二十一年度）

### 秋の紅葉

石部中学校 一年

黄之瀬

寛朗

まつ赤にそまつた葉が  
おこつたかのように  
まつ赤にそまつた葉が  
何かを悟つたかのように  
ひらひら ひらひらと  
悲しげに まいおちる  
まるで



## 佳作（平成二十一年度）

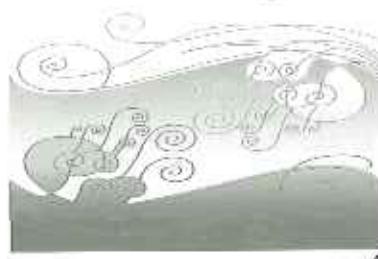
### 空の表情 人の表情

石部中学校 二年

福永

楓

空はたくさん表情を持つている  
雨が降り雷がなる  
けれどいつかきっと晴天になる  
晴天は私たちの笑顔にそつくりだ  
青色が空一面に広がると  
なんだか幸せな気持ちになる  
雨が降つたら泣き顔だ



空はいろんなことをためこんで  
けど、時には  
ためこめられなくなつて大粒の雨に変わるので  
空も人もたくさん表情を持つている  
どんな表情もすばらしい

まつ赤にそまつた 雨のように  
次々 次々と  
ひらひら ひらひらと  
悲しげに まいおちる





## 佳作（平成二十一年度）

### 空

石部中学校 二年 多田

咲月

### 空の顔

甲西北中学校 一年

福本

望帆

### 春の空

うつくしい雲が輝き  
そよそよ流れる風

私はたくさんのはじめてに出会う

### 夏の空

入道雲がむくむく広がり  
耳に残るセミの声

私はたくさんの楽しさに出会う

### 秋の空

だいだい色の雲光り  
落ち葉がおどり散っていく

私は少しのさみしさに出会う

### 冬の空

雲一つない白い世界  
天から降る白い宝石

そして  
私はすべての空を知る



また、空を見ると  
少し冷たい紫の空が  
目にうつる

空は色々な顔を  
持っている

どれもみな  
私は大好き  
次はどんな顔を  
見せてくれるかな



# 佳作（平成二十二年度）



## 私の宝物

甲西北中学校 三年

吉田 やさか

石部中学校 二年

林 みや

美里 みさと

人にやさしくできたら

私の宝にしよう

人にやさしさをもらえたら

心の中にしまっていこう

いつかやさしさで心があふれできたら

心の引き出しをめいいっぱいあけて

人にやさしさをわけていこう

いつかみんなが笑顔になつて

やさしさであふれる世界になるといいな



## 空

朝 空はすみきつた青になり

私たちを明るく送り出してくれる

夕方 空は夕日の色に染まり

私たちを優しくなぐさめてくれる

夜 空は無数の星々を輝かせ

私たちをそつとつみこんでくれる

人にやさしさをわけていこう

空 それはいつも

私たちを見守る





## 佳作（平成二十二年度）

道

石部中学校 二年

宮崎  
みやざき

友里  
ゆり

道なき道を歩く  
どの方向へ 歩いても  
ただただ  
迷うばかり

家族友だち皆も  
いつしょに  
皆 それぞれ  
全く違う方向へ  
歩いている

ふと立ち止まつて  
後ろを振り返る  
私の歩いた跡に  
道があった  
誰も歩くことのない  
私だけの  
道があつた

道なき道を歩きつづける  
行くあてもなく  
地図もない  
それでも 終わりはない  
この旅

私の行くべき所は  
誰も知らない  
しつているのは  
自分だけ





佳作（平成二十二年度）

ひかり

甲西中学校 三年

九條

恵利花



今まで当たり前だと  
思っていたもの全て  
掌からこぼれ落ちてゆく

そこにあるのは絶望と

永久に続く闇の世界

歩けど 歩けど

寂しさはずつと離れずに

やがてひとつひかりに目が眩み

届くようにと手を伸ばす

闇とひかりをさまよって  
気付いたのは

眩しくて見えなかつた

当たり前

傍そばにありすぎて大切にできなかつた

当たり前

全てに奇跡が刻まれていて

全ては奇跡につつまれていた

太陽のひかりがそつと優しく  
つつんでくれているように



## 佳作（平成二十四年度）

### 春が来る前に

甲西北中学校 三年

藤田 あこ

あこ

ひゆるひゆる  
つめたい風が 走つてく

木枯らしなんて呼ばれるけど  
ほんとは 木々をねむらせてる

ひゆるひゆる  
年のおわりに走つてく

新しい春をむかえるために  
木と生き物をねむらせる

ひゆるひゆる  
冬もいそいで走つてく

忙しい冬がおわったか  
木枯らしひゆると  
去つていく

春がきた



## 【五七五 部門】

小学校一年生～二年生の部

○掲載作品の作者の学年は、入選当時のものです。



**第一回（平成二十一年度）**

**第四回（平成二十三年度）**

**佳作**

**最優秀賞**

**最優秀賞**

**平成二十一年度**

**優秀賞**

**優秀賞**

**平成二十一年度**

**第一回（平成二十一年度）**

**第五回（平成二十四年度）**

**平成二十一年度**

**最優秀賞**

**最優秀賞**

**平成二十一年度**

**優秀賞**

**優秀賞**

**平成二十四年度**

**第二回（平成二十一年度）**

**最優秀賞**

**優秀賞**



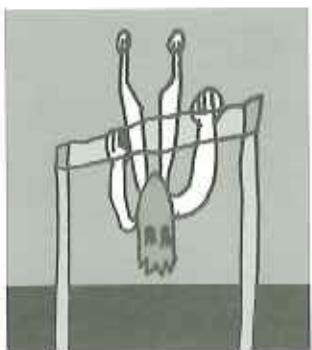
## 第一回（平成二十年度）最優秀賞

〔評〕

下田小学校 三年 吉野 紗矢

てつぼうに てがとどくかな てながざる

わたしにはちょっと届き  
そうにない鉄棒。  
テナガザルと一緒に思案  
している、そのような作者  
の心の中までがうかがえま  
す。



## 第一回（平成二十年度）優秀賞

菩提寺小学校 三年 山根 悠介

青空の下 はばたくように 走りぬけた

水戸小学校 三年 芝 美優香

はるよこい ゆきのふとんは もうとけた



## 第一回（平成二十一年度）最優秀賞

【評】

けんめいに飛<sup>よ</sup>ぼうとするにわとり  
を見たのでしょうか。あるいは、そ  
のようなしぐさをしたのかも。あの  
ひんじやくな羽をばたつかせ。  
彩夏さんは、もうそんなにわとり  
のがんばる気持ちになつてているので  
しよう。そして、ちよつびりだけど  
飛んだのです。それが自分のことの  
ように、うれしかったのです。

岩根小学校 三年 坂尾 彩夏

## 第一回（平成二十一年度）優秀賞

三雲小学校

三年

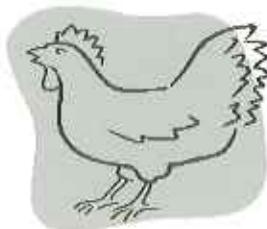
松永 航太

青い空 みんなを上から 見つめてる

菩提寺北小学校 二年 高橋

仁

雨つづき てるてるぼうずも なみだ顔



## 第三回（平成二十二年度）最優秀賞



ありんごが 大きくみえて つまずいた



### 【評】

思いがけないところにありがいて、びっくりしたのでしょうか。その一瞬の驚きを「つまずいた」として、よく表しています。

## 第二回（平成二十二年度）優秀賞

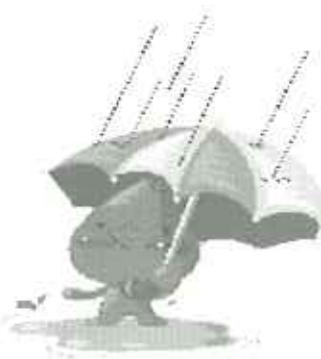


ポツポツと かわいい雨つぶ おひっこし

三雲東小学校 三年 佐竹 香音

下田小学校 一年 谷 朋希

おつきさま まるいぞなんで ききたいな

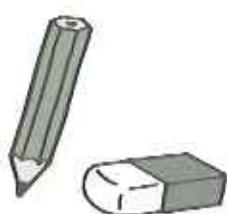


## 第四回（平成二十二年度）最優秀賞



三雲東小学校 二年 清水 宝来

けしごむが すんごいとんだ 金メダル



### 【評】

誤つて床へ落とした消しゴム・・・勢いよく飛び跳ねていく素早い動きに、ゴールドメダリストを思つたのでしょうか。

## 第四回（平成二十二年度）優秀賞

水戸小学校 二年

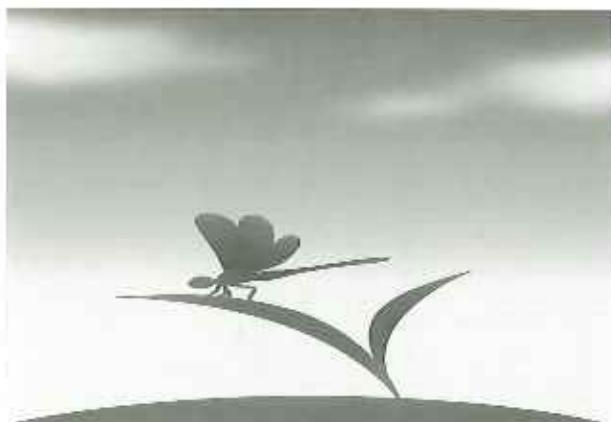
古道 皓太

たいそは からだをまもる おまじない

石部小学校 一年

鍛治 彩未

あかとんぼ ゆうやけの中で ひとやすみ



## 第五回（平成二十四年度）最優秀賞

春の風 やさしいにおいが どどいたよ

水戸小学校 三年 渡部 紗衣



## 第五回（平成二十四年度）優秀賞

石部小学校 三年 吉田 澄央

七色の しづかに消える 空の橋

三雲東小学校 一年 井上 楓果

すすきがね やうやうひつひと おどつてる



【評】  
「やさしいにおいがとどいた」とは、自然を慈しむ家族や友達の何かひとつが、このような感覚を誘うのかもしれません。



## 佳作（平成二十年度）

きゅう食は なにかなにかな たのしみだ

石部小学校 二年

赤トンボ 子どもをつれて とびまわる

石部南小学校 三年

けがしたの だいじょうぶを ありがとう

三雲小学校 三年

秋風で おちばはみんな たびに出る

三雲東小学校 三年

夏休み ひまわりといつも せいいくらべ

三雲東小学校 三年

ヤドカリさん はずかしがって でてこない

菩提寺小学校 一年

しゃぼんだま ふーとふいたら ふわふわわ

菩提寺小学校 二年

ゆきだるま あせをかいたら とけるかな

菩提寺小学校 一年

村上 龍星むらかみ りゅうせい

谷川 新菜たにがわ にいな

赤江 夢月あかえ ゆづき

小林 混幸こばやし ひろゆき

小川 詩織あがわ しひき

千代 清加ちよし せいか

竹内 倭人たけうち しづか

武田 亜優美たけだ あゆみ

ウラヤマで おとしあなから 声がした

冬だけど ぼくは半そで つづけるよ

やさしいよ おねえちゃんが ねてくれて

せんせいへ おでがみあげる えをかくよ

菩提寺小学校 三年

菩提寺小学校 三年

下田小学校 一年

下田小学校 一年

家邊

福岡

千田

佐古

寛人

桃南

凌五

智洋



佳作（平成二十一年度）

ホームラン 青空高く 消えていく

秋の風 おち葉をのせて どこへ行く

石部小学校 三年

石部南小学校 三年

佐伯

三浦

俊

大和

ゆきだるま もうすぐあなたと ここにちは  
もみじのは ひらひらペペラ おどつてる  
おいしそう めがおおきて めだまやき  
らんごせる なんでもはいる おもいけど  
登校で ツルンとすべる 見られたよ  
あじさいが 雨にうたれて わらつてゐ  
ありがとね キレイな光 お月さま

菩提寺北小学校 二年

菩提寺北小学校 二年

三雲小学校 一年

三雲小学校 一年

馬場 岡崎 あがさき

馬場 岡崎 あがさき

黒田 早織 くろだ

黒田 早織 くろだ

下田小学校 三年

下田小学校 三年

山中 高尾 たかお

山中 高尾 たかお

紅葉 倉真 りょうま

紅葉 倉真 りょうま

冰音 ひょうね

冰音 ひょうね

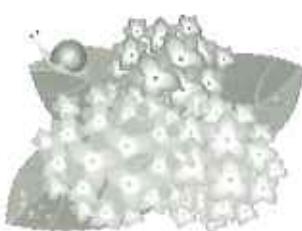
水戸小学校 二年

板垣 いたがき

望月みなみ もちづき

絢音 あやね

唯 ゆい





**佳作（平成二十二年度）**

秋の夜 すらりと風が ながれてる

サンタさん わかつてるよね ほしいもの

あなあけて きんぎよはすぐに にげていく

かたつむり 中に入ると キヤンディーだ

ひがんばな きれいにさいて もえそうだ

バラバラと 雨たちみんな ぶじ着地

あきがきた おちばのふとん ねてみたい  
九九の日は すぐれたのしみ なんでかな

三雲東小学校 二年

菩提寺小学校 二年

井上 いのうえ

駿音 しゅん

水戸小学校 三年

石部南小学校 三年

三年

名坂 なさか

田中 たなか

石部小学校 一年

三年

山本 やまもと

岩根小学校 三年

三年

小宮 こみや

石部南小学校 一年

一年

創偉 そうい

三雲東小学校 三年

三年

ゆう

小川 あがわ

伊奈 いな

園 その

理央 りあ

唯菜 ゆいな

弘起 ひろき



## 佳作（平成二十三年度）



さかみちで ぼくとどんぐり きょうそうだ  
もみじがね わたしのまえを ひらひらと  
たいようは あおぞらぶかん およいでる  
シャボンだま かぞくみんなで ひつづくよ  
あおむしが きやべつをたべて おちちゃつた  
夏の空 いろいろな雲 アイスにも  
しあいして はじめて勝てた 夏の風

岩根小学校	三年	中井 陽斗	なかい ひろと	菩提寺北小学校	三年	岡崎 氷音	おかざき ひょうね
石部南小学校	三年	富澤 春輝	とみざわ はるき	下田小学校	二年	西村 ちひろ	にしほり
三雲小学校	一年	立入 裕天	たちいり ゆたか	吉岡 奈緒	よしあか なお	三雲小学校	二年
				北村岳久翔	きたむらがくと		



佳作（平成二十四年度）

友だちを 家族みたいに 思う秋

さむいひは きみのえがおで あつたまる



ごはん中 かぞくがわらえば わたしもわらう

菩提寺北小学校 三年

太陽が ぼくにくれたよ あついあせ

菩提寺小学校 三年

かえりみち たんぽぽ見つけて ふわふわわ

三雲東小学校 一年

お空がね 海のかわりだ およごうよ

水戸小学校 三年

大角 あおすみ  
美月 みつき

大島 おおしま  
朋晟 ともあき

安田 やすだ  
夏柚 なつゆ

井澤 いざわ  
梨奈 りな

石部南小学校 三年

三雲小学校 三年

前畠 まえはた  
百花 ももか

江南 えなみ  
莉乃 りの

雪の日に きらきら光る たからもの  
とんぼの日 夕やけ当たる 赤くなる  
どんぐりは ぼうしをのせて おちていく  
うらやまは あくせざりーが たくさんだ  
夏の夜 「ドン」とおおきい ひかる空  
どんぐりくん 山からおりて であえたね

水戸小学校

三年

岩根小学校

三年

下田小学校

二年

菩提寺小学校

一年

勝谷

かわや

大崎

あさき

木田美映ミシェル

かづや

彰悟

高橋

たかはし

鈴音

れいおん

谷村

たにむら

佳南

かなん

菩提寺北小学校

二年

鮫島美菜心

さめしまみなみ

## 【五七五 部門】

小学校四年生～六年生の部

○掲載作品の作者の学年は、入選当時のものです。



**第一回（平成二十一年度）**

**第四回（平成二十三年度）**

**佳作**

**最優秀賞**

**最優秀賞**

**平成二十一年度**

**優秀賞**

**優秀賞**

**平成二十一年度**

**第一回（平成二十一年度）**

**第五回（平成二十四年度）**

**平成二十一年度**

**最優秀賞**

**最優秀賞**

**平成二十一年度**

**優秀賞**

**優秀賞**

**平成二十四年度**

**第二回（平成二十一年度）**

**最優秀賞**

**優秀賞**



## 第一回（平成二十年度）最優秀賞

【評】

下田小学校 六年 高塚 南海

今日一日が終わり、そして  
よりよい明日をつなぐような  
夕焼け。

夕やけに 私が打つた ホームラン

このホームランは、そのよ  
うな充足感を満たす心のホー  
ムランなのでしょう。

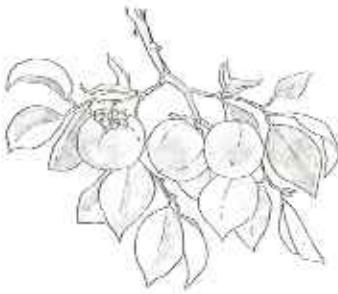
## 第一回（平成二十年度）優秀賞

三雲小学校 五年 梅本 あづし

夏休み 花火のように きえていく

秋晴れに てらされるかき わらつてた

岩根小学校 六年 伊藤 ほのか



## 第一回（平成二十一年度）最優秀賞

【評】

石部小学校 六年 佐野須那緒

走りぬけ 手足をのばせ ゴール前

ゴール直前の高ぶりをおう歌したものでしよう。余裕のトップランナーを経験したのでしょうか。  
走りぬけ：手足をのばせ：と、自分自身へのエネルギーとすれば、「ゴール前」がいっそうリアルで、なんとも快です。



## 第一回（平成二十一年度）優秀賞

水戸小学校 六年 遠藤邦晃

友情は パズルのように かさねあう



あきかぜの さざやききいて リラックス

菩提寺小学校 六年 加藤悠紀

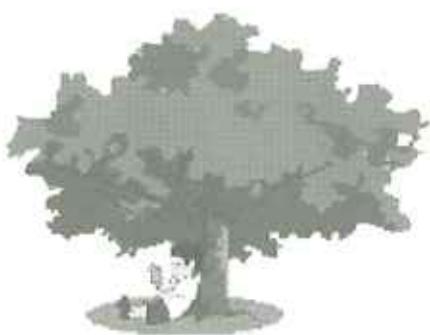
## 第二回（平成二十二年度）最優秀賞



三雲東小学校 四年

小谷 美帆こたに みほ

一本の木のかげに行き 本を読む



【評】

どこかメルヘンチックですが、これはあこがれの時間なのでしょう。大きな木を、そしてそこに、もたらせる読書に最適な空間をひとりじめにしているのです。

## 第二回（平成二十二年度）優秀賞

石部小学校 六年

土居 美優どい みゆう

やきいもを よりそいながら はんぶんこ



冬休み おもちのように のびたらな

三雲小学校 四年

森本 光もりもと ひかる

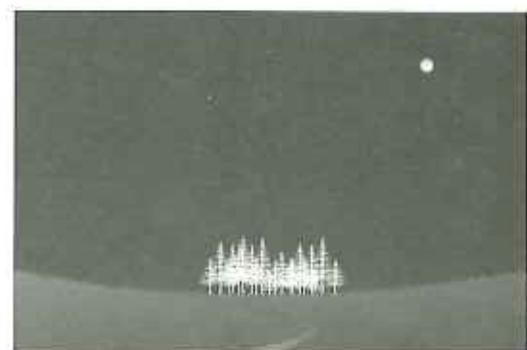
## 第四回（平成二十三年度）最優秀賞



三雲東小学校 五年

杉河 愛結

みあげれば よぞらにひかる ゆきのたね



【評】

凍てつくような冬の夜  
空・星が層輝いて見  
えるのは、それが雪の種だ  
からかも知れません。理屈  
ではない、詩的な感情によ  
る発見が素晴らしい。

## 第四回（平成二十三年度）優秀賞

石部小学校 六年

太田 朱理

山の木が 秋風ふくたび はく手する



卒業は まだだと思うが 一分後

三雲小学校 六年

谷 登輝

## 第五回（平成二十四年度）最優秀賞

【評】

さつまいも つるのときには ともだちが  
下田小学校 六年 喜多 航也

さつまいもの収穫の喜びを詠ったものでしょ  
う。  
芋づる式という言葉がありますが、連なつてい  
る様子を「ともだちが」と例えたところで楽しい  
作品となっています。

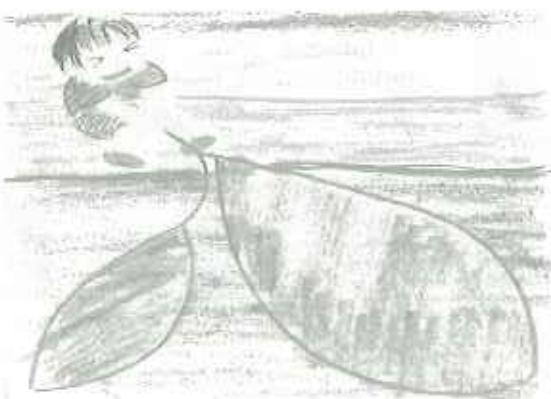
## 第五回（平成二十四年度）優秀賞

菩提寺小学校 四年 浜辺 大河

冬の空 一番星の 音がする

秋時雨 鹿をさわって あたたまる

三雲小学校 六年 神原 彩香





## 佳作（平成二十年度）

雪だるま 大きい庭に ひとりきり

三雲小学校 五年

夏の空 おいしそうだな 雲いっぱい

三雲小学校 五年

もみじの葉 妹みたいで かわいいな

三雲小学校 六年

夕やけを いつしょにみてる 赤とんぼ

三雲小学校 六年

つゆの朝 てるてるぼうず ゆらゆらと

三雲東小学校 六年

今日も雨と 大合戦

三雲東小学校 六年

学校は かなしいときも 先生が

菩提寺小学校 四年

ささえてくれる ぼくたちのばしょ

いちょうのは 冬がくるよと かたつてゐる

菩提寺小学校 六年

小松 こまつ

田中 たなか  
健章 けんしょう

北岡 きたおか  
大輝 ひろき

小島 こじま  
拓郎 たくろう  
美喜 みき

石本 いしもと  
福手 ふくで  
愛美 まなみ

渡辺 わたなべ  
真広 まさひろ

雨降りに てるてるぼうずが うなだれて

秋風が 服のすき間を 通つてく

たんぽぽは いろんな人と めぐりあう

雪だるま サンタにたのむ 日焼け止め

めざましの 音にも勝つた 冬の朝

菩提寺北小学校 六年

岩根小学校 五年

岩根小学校 五年

下田小学校 四年

下田小学校 六年

五年

四年

上西 海月

渡邊 莉希

黒田 賢太郎

五年

望月 翔太郎

西村 夏音

佳作（平成二十一年度）



大花日 やんちゃぼうずを だまらせる

下田小学校

五年

石井 いしい

石部小学校

五年

大隅 あさみ

伸 しん

亮 たすく

台風が 近づいても まだ遊ぶ

組体で ひざをつくたび 石のける

石部小学校

五年

弓場 ゆば

美優 みゆう

赤とんぼ 私といつも おにごっこ

岩根小学校

六年

加藤 かとう

茜 あかね

マラソン中 観客の声 ふんばれる

岩根小学校

六年

望月翔太郎 もちづきしょうたろう

山本奈生子 やまもとなこ

はじめての ゆきはまつしろ もちみたい

三雲小学校

四年

金 きむ

炤亭 そらよん

戦いだ ストーブの前は ゆずれない

三雲小学校

六年

岡田亮太郎 おかだりょうたろう

冬の空 星の家族が 笑つてる

石部南小学校

五年

青木 あおき

スタンドに ひとふりきめた ホームラン

三雲東小学校

五年

北村康太郎 きたむらこうたろう

おいもほり どのが一番 でかいかな

菩提寺北小学校

四年

亮 りょう



佳作（平成二十一年度）



赤とんぼ 夕日と並び さんぽする

三雲東小学校 六年

井上 いのうえ  
萌 もえ

もみじの葉 他の葉つぱと ジャンケンポン

石部南小学校 六年

祐喜 ゆうき

寒い朝 母さんの手は カイロだよ

岩根小学校 四年

典華 のりか

冬になり コタツの中は 足だらけ

岩根小学校 五年

林 はやし  
中 なか

夕やけは 山にかくれて 明日を待つ

菩提寺小学校 五年

美紅 みくな  
江 紅菜 こうな

夕ぐれに はつきりうつる ぼくのかげ

水戸小学校 五年

雲 くも  
菜々子 ななこ

大空は いつでも書ける キヤンバスだ

水戸小学校 四年

福井 ふくい  
界人 かいじん

朝つゆが つばきに眞珠 しんじゅ  
プレゼント

菩提寺北小学校 五年

四宮 しのみや  
颯斗 はやと

宮地 みやち  
麻人 あさと



**佳作（平成二十三年度）**



たんぽぽが 大きな空へ 旅に出た	下田小学校 六年
あかとんぼ ゆうひをつれて おつてくる	石部南小学校 四年
もう秋か 去年もみてた 鮎雲	下田小学校 六年
ブロッコリー さらのはずれに 森作る	菩提寺北小学校 四年
つもれ雪 足しずむまで つもれ雪	菩提寺小学校 五年
スキー場 窓をのぞけば ほらそこに	石部南小学校 六年
春がきた 動物たちの 音がする	

水戸小学校 四年	長岡 ながおか	須山 すやま	小松 こまつ	矢部 やべ	吉田 よしだ	下田 しもだ	竹内 たけうち	太田 あおた
陽菜 はるな	友花 ともか	稔宜 としき	稔晴 としひる	樹 いつき			悠賀 ゆうが	汐織 しあり

雪だるま みんなといふと 笑つてゐる

夏休み プールの中に 人だかり

九月になれば 声も無くなる

夕方に 赤とんぼたちが とんでいる

赤い空の 真ん中を目指して

持久走 仲間と果たした 100周練習

めざした心の一等賞

下田小学校

岩根小学校

三雲小学校

六年

六年

五年

佐藤さとう

寺嶋てらしま

河村かわむら

達弥たつや

章人あきひと

望花みか

新宮しんぐう

彩海あやみ



佳作（平成二十四年度）



虫たちが 冬眠前の お買い物

菩提寺小学校 六年

寺村てらむら

梨花りか

雪の道 足あと私に ついてくる

石部小学校

六年

お月さん 池にむかって にらめっこ

三雲東小学校

六年

雪の夜 一人ぼっちの 雪だるま

岩根小学校

四年

空おおう 龍の背中の うろこ雲

石部南小学校

六年

あかね茜に染まる 秋の夕暮れ

冬の空 白い宝石 ふつてくる

水戸小学校

六年

秋晴れの 大仏の影 よくのびる

三雲小学校

六年

かまくらは 大きな大きな 大福だ

下田小学校

六年

金かく寺 水の中から よんでいる

菩提寺北小学校

五年

村山

楓介

出山

いすみ

石本

眞生

喜多

絢菜

谷口

諒弥

吉蘭

遥香

青木

優茉

上田

まりん



【五七五 部門】

中学生の部



○作品集への掲載作者については、当該入選当時のものです。

第一回(平成二十一年度)

第四回(平成二十三年度)

佳作

最優秀賞

最優秀賞

最優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

第二回(平成二十一年度)

第五回(平成二十四年度)

平成二十一年度

最優秀賞

最優秀賞

最優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

第二回(平成二十一年度)

最優秀賞

最優秀賞

優秀賞



## 第一回（平成二十年度）最優秀賞

甲西北中学校 三年 奥村 優依

もがいても 飛べない空に 手をかざす

いくばくかの挫折も  
味わう中三の時期。  
飛べない空と、  
もがきながらも可能性を  
自ら聞こうとしているの  
です。



## 第一回（平成二十年度）優秀賞

甲西中学校 三年 中野 凌太

変われよと 我にざさやく 桜の木

日枝中学校 一年 松岡 風也

うるいじとも ぼくらのゴールを ほほえむよ



## 第一回（平成二十一年度）最優秀賞

甲西中学校 三年 佐相潤也

夕焼けの赤く染まつたこの街に  
今の自分を問い合わせるかな



【評】

赤く染まる夕焼けの街：特に  
段変わりのない風景ですが、  
まぎれもなく今を懸命に生き  
る自分の街への愛着や誇りが  
感じられます。日々、大人へ  
と脱皮してゆく喜びやとまど  
いに、自問自答する作者の後  
ろ姿が窺えます。

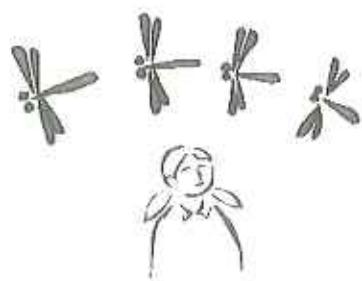
## 第一回（平成二十一年度）優秀賞

甲西中学校 三年 中林彩香

赤とんぼ その日に何が映つてる  
人が知らない 空の世界を

甲西北中学校 二年 鶴飼昂

夕暮れで 紅葉に見える君のほほ

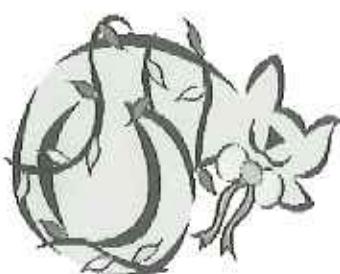


## 第二回（平成二十二年度）最優秀賞



小春日こはるひに 先生の声 遠ざかる

甲西北中学校 三年 吉田よしだ さやか



【評】

授業中なのでしょう、あまりの心地よさにふと眠気を誘わされたのです。「遠ざかる」という間接的な表現に、その時の雰囲気がよく出ています。

## 第三回（平成二十二年度）優秀賞



甲西中学校 二年 筒木つづき 真子まこ

あれに飽き これにも飽きた 夏休み  
蚊取り線香 眺めて過ごす

甲西中学校 一年 森本もりもと 竜介りょうすけ



木枯こがらしが 街と自分を 突き抜ける

## 第四回（平成二十三年度）最優秀賞



甲西中学校 二年

浦岡

美咲

夏空に 太陽のぼる 体育館

昔の私 こえられたかな



## 第四回（平成二十三年度）優秀賞



日枝中学校 一年

阪上

謙心

秋の道 色えんぴつが 並んでる

虹の端 見えない未来は その先に

甲西中学校 一年

佐藤

渚



### 【評】

クラブに励む体育館・汗だくになりながら、今の自分を問いかがえます  
一直しているのでしょう。一生懸命な姿がうかがえます

## 第五回（平成二十四年度）最優秀賞



石部中学校 三年 堂角 菜々香

青い海 夕日がうつり 紅に

泣いているのか 笑っているのか



## 第五回（平成二十四年度）優秀賞

日枝中学校 二年

池田 仁人

秋桜が 涼しい風を 浴びながら  
ずっとみんなを見つめていた

日枝中学校 三年 谷 穂菜実

秋の空 みんなの弱音を すいとつた



### 【評】

いつも心に広がる青い  
海……心象句と考えます。  
ときには、紅に染まる海は、  
悲喜こもごもを映し出して  
いるようです。「泣いている  
のか わらつているのか」  
という表現に中学生らしい  
微妙な心理がうかがえます。



## 佳作（平成二十年度）

登下校 白い息が 横通る  
たけくらべ どちらが深いか 空と海  
母のよう 通学中の 桜の木  
雨音も 耳に入らぬ 本の虫  
いわし雲 周りのみなに 支えられ  
まるで今の 私みたいに  
ひび割れる 心はまるで 氷面鏡<sup>ひもかがみ</sup>  
自転車の 前にはだかる 冬将軍

石部中学校  
一年

石部中学校  
三年

甲西中学校  
三年

甲西中学校  
一年

甲西北中学校  
一年

甲西北中学校  
一年

水野  
みずの

望月  
もちづき

中村  
なかむら

柴田  
しばた

黄瀬満知愛  
きのせみちか

井海  
いかい

三浦  
みうら

旭  
あさひ

崇道  
たかみち

好み  
このみ

悠希  
ゆうき

航也  
こうや

瑞貴  
みづき



**佳作（平成二十一年度）**

いわし雲 ゆらりゆらりて 流れゆく  
色あせるのか この世の中に  
秋の山 色えんぴつが たりないね  
秋風が 十五の心を なでていく

日枝中学校

三年

日枝中学校

一年

甲西北中学校

三年

梅村

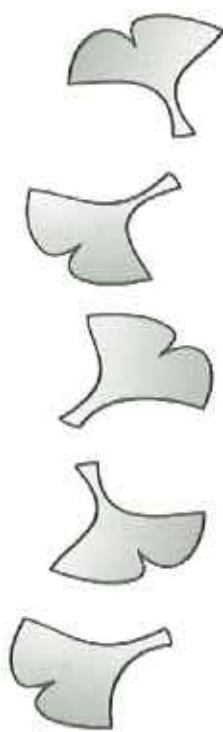
ユージ

田端

美波

富田

えり



あんなにも 泣いてる空は 初めてだ  
たまには泣くよ 生きているから

石部中学校

二年

川崎将太郎

かわさきしょうたろう

五線譜に 眠る音符が 田覚め出し  
旋律奏でて ワルツを踊る

甲西中学校

三年

森 ななみ

もり ななみ

家帰り 風鈴が言う お帰りと

日枝中学校

三年

井上

直人

ひらひらと 落ちる紅葉や 手の「」とし

日枝中学校

二年

大野詩央里

あり

このボール 空気だけでは 満たされない

甲西中学校

三年

安田

やすだ

いつもより

切羽詰せっぱつまつた テスト前

普段はやらぬ 家事を手伝う

甲西北中学校

一年

山本

やまもと

ふと気づく 庭の柿は 食べごろか

甲西北中学校

一年

宮田

みやた

雪が降り 木に純白の 花が咲く

石部中学校

三年

堀江

ほりえ

この思い 雪のように つもってゆく

石部中学校

一年

能川

のがわ

涼子

りょうこ



佳作（平成二十一年度）



宇宙よりも 地上のほうが 美しい

人の数だけ 白く輝く

雨つぶが 竹の葉の上 大はしゃぎ

外で遊べぬ みんなのかわりに

虫の音より 聞こえる声は 友の声

ひまわりの 向いてる先が 未来かな

紅葉が だれかに恋して 紅くなる

野菜あげ 代わりにもう 虫の音を

甲西中学校 二年

尾崎 あさき

甲西中学校 二年

佐藤 さとう

日枝中学校 二年

青木 あおき

甲西北中学校 三年

青木 あおき

日枝中学校 一年

西谷 にしだに

甲西北中学校 一年

星山 ほしやま

大湖 だいこ

秀史 ひでのみ

優也 ゆうや

奈海 なみ

星 さつき



佳作(平成二十二年度)



母が言う ぼくの汗は ナイアガラ  
のら犬が 迷子の枯葉 追いかける  
赤とんぼ 忘れ物して 飛んできた

日枝中学校	石部中学校	石部中学校
一年	一年	一年
上西	伊勢谷将太	大園
みしお	ひろあき	
美潮		

赤い山 心も一緒に 衣替え  
太陽が ぼくの体力 持っていく  
夕焼けに 虹という名の すべり台

甲西北中学校	石部中学校	甲西北中学校
一年	一年	三年
西	伊藤	澤田
未羽	一真	容鼓

もみじの木 家族をずっと 支えてる



佳作（平成二十四年度）

結果表 僕に吹きしく 北の風

新しく 生まれ変わった 虹の空

秋風に 吹かれて手をふる ススキの穂

秋の山 赤黄緑の 交差点



石部中学校

三年

大嶋優香  
あおしま ゆうか



甲西北中学校

三年

坂口亞弥  
さかぐち あや

甲西中学校

一年

朝陽伽奈恵  
あさひ かなえ

日枝中学校

一年

奥村佑典  
おくむら ゆうすけ

石部中学校

三年

三浦慧太郎  
みうら けいたろう

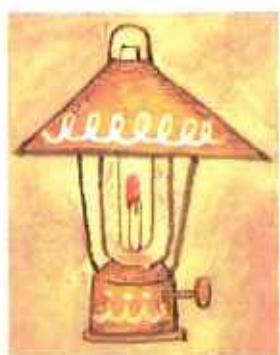
いのちのよろこびを うたう

美しい詩のかずかず

あとがきにかえてく

詩人 野呂

さかん



### 詩とは何か

人間はものを感じることのできる動物です。美しい景色を見ると、心がうつくしく、かがやくような気持ちになります。よいおこないを見ると、心がそれなおこないにそめられて、あたたかくやさしい気持ちになります。ふしぎなものを見てびっくりすることも、悲しいことなどであつて心がしづんでしまうことも、「ものを感じる」とから起つてくるのです。詩は、「このようないのちのよろこびやおどろきや、かなしみを、もっとも短い」とばで書きあらわしたもののことです。

美しいことばは、人の心をうつくしくするはたらきがあります。正しいことばは、人の心をうつくしくするはたらきがあります。正しいことばは、人の心を正しく明るくします。はんたいに、きたないことば、らんぽうなことばは、人の心をきたなく、らんぼうにします。詩を書くことの大切さは、このためにあるのです。

## 詩を書くよるいじび

わたしたちは詩を書く」とによつて、なにを得る「ことができるでしょうか。

(一) じぶんの心のなかを、ふかく見つめることができるようになります。

詩は、まわりの風景やできごとを、よく見るところから生まれてきます。それといつしょに、じぶんの心のなかや人の心のなかも見えてきます。

(二) 美しいもの、よいものへの関心が深まります。

道ばたに咲く、小さな一りんの花の美しさにも、心がうきやかされるようになります。また、目に見えない他人のよいおこないにも、気がつくようになります。

(三) 新しいじぶんを発見できます。

人や動物や植物などの生きさまに心打たれることは、じぶんもそのように生きたいと、願うことでもあります。詩を書く」とで、じぶんがどのようにになりたいか、なにをしたいか、じぶんについて、新しい発見ができます。

」のたび、湖南省の小・中学生が書いた詩や短詩形（俳句・川柳・短歌）が、このように美しい本になりました。どの作品も、その人でなければ発見できなかつた感動が、うつくしい言葉で表現されています。

「湖南省の小さな詩人たち」に参加した小・中学生のみなさんとともに、喜びたいと思います。

第一回～五回（平成二十年度～平成二十四年度）

## 湖南省の小さな詩人たち

「子どもたちが創った

詩・俳句・川柳・短歌 入選作品集」

## おじいちゃんの手

発行日 平成二十六年三月  
編集・発行 湖南省教育委員会  
印 刷 株式会社 きじま や